

教師のセルフ・モニタリングを活用した授業改善

鹿嶋 真弓（高知大学）

吉本 恭子（高知市立西部中学校）

Classes to improve teacher's usage of self-monitoring methods

Mayumi Kashima (Kochi University)

Kyoko Yoshimoto (Seibu Junior High School)

抄録：高知県の中学校の学力の定着状況に課題があることの要因として、授業改善が個々の教員任せになり、学校において組織的な授業力向上に向けた取り組みが十分でないことや、校内で授業改善を進める仕組みが十分整っていないことがあげられる。教師が個人で授業改善を試みようとしても、自分では何をどう変えればいいのか分かりづらいためにうまくいかない場合が多い。そこで本研究では、生徒からの授業評価と教師自身の授業評価、さらに生徒自身が自分の授業に望む姿勢を評価する3種類のアンケートを活用して、教師が自身の授業方法についてセルフ・モニタリングできる仕組みを作り、授業改善を試みた。生徒自身が自分の授業の受け方について自己評価することで、授業に対して当事者意識が高まり、能動的な態度が身につくものと考えられる。また教師は、生徒が授業により高い自我関与を示すのはどのような授業がなされた時かを知り、授業改善のヒントとなることが示唆された。

キーワード：授業評価、セルフ・モニタリング、授業改善、自我関与

I 問題と目的

グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等、変化の激しい時代を生き抜く子どもたちに必要な資質・能力を育成するためには、学びの量とともに、その質や深まりが重要であり、子どもたちが物事についての深い理解や課題解決ができるよう、「どのように学ぶか」という学び方にも着目して、ふだんの授業改善を行う必要がある（2016、高知県教育委員会）。授業改善を行うためには、児童生徒に基礎的な知識・技能を習得させるとともに、実社会や実生活との関連を測って、自ら課題を見出し、その解決に向けて知識や技能を活用し、主体的・協働的に物事の本質を探究していくような学習活動を行うことが必要である。高知県の中学校の学力の定着状況に課題があることの要因として、授業改善が個々の教員任せになり、学校において組織的な授業力向上に向けた取り組みが十分でないことや、校内で授業改善を進める仕組みが十分整っていないことがあげられる。教師が個人で授業改善を試みようとしても、自分では何をどう変えればいいのか分かりづらいためにうまくいかない場合が多い。

そこで、A校において授業改善を進めるための一つとして、授業アンケートを活用することを試みた。一般に、授業アンケートは授業者自らが自己評価を行い、よりよい授業にするためには何が必要かを考え、自身の授業を改善していくものであり、多くの教育現場で取り入れている方法の一つである。A校では、授業者自らの自己評価ができる『楽しい授業にするための授業評価シート（教師用）』（資料1）のほか、『楽しい授業にするためのアンケート（生徒用）』（資料2）がある。それらの結果を照らし合わせることで、教師は自らの授業についてより客観的にふり返ることができると考えられる。さらに、生徒自身も教師への授業評価をするだけでなく、自らの授業への取り組み

について、責任をもつことが大切である。そこで、生徒自身も自らの授業での学びについて振り返る『ためになる授業にするためのアンケート（生徒用）』（資料3）により、セルフ・モニタリングができると考え、それぞれの質問項目が対応した3種類のアンケートを作成して実施している。これらを定期的に実施することで、教師自身の授業力を高めることにつながると考えられる。

自己効力にもっとも関連するのは、「学びの自我関与」の側面である。自らの行動を自身で振り返るメタ認知の能力が身につけば、行動の改善につながると考えられる。メタ認知とは、認知についての認知のことであり、一般には、認知のセルフ・モニタリングとセルフ・コントロールの働きとして知られている（多鹿、2010）。セルフ・モニタリングの概念は、Sunder（1974）によって提唱され、対人場面での自己呈示や感情表出を調整・統制する特性として定義されている（岩淵・田中・中里、1982）。生徒との対面場面の多い教師にとってセルフ・モニタリングの能力は重要な資質の一つであり、（天根・川原、1986）、また、Sunder（1974）は、セルフ・モニタリング傾向の高い者は状況に応じて行動を決定することができることを示唆している。一方、セルフ・コントロールは自己の行動を統制する特性として定義されている（Thoresen & Mahoney, 1974）。セルフ・コントロール傾向の高い者は、良い対人関係を形成することが明らかにされている（Tangney, 2004）。すなわち、これらの要素を含むメタ認知を向上させることは、教師の指導行動の改善に有効であると考えられる。

資料1 楽しい授業にするための授業評価シート（教師用） 資料2 楽しい授業にするためのアンケート（生徒用）

楽しい授業にするためのアンケート(生徒用)

実施年月日 年 月 日

姓 名 年 組 氏 名

(4 : そう思う 3 : ややそう思う 2 : あまり思わない 1 : 思わない)

	観 点	評 価	メ モ
1	先生は、私が理解できるまでいろいろな方法で教えてくれる	4 3 2 1	
2	私は、1時間1時間の授業で、何ができるようになるのか知っている	4 3 2 1	
3	先生が、授業の流れとその時間何をするのかを話してくれるので取り組みやすい	4 3 2 1	
4	先生の質問は、今、何について考えればいいのかのかわかりやすい	4 3 2 1	
5	資料や先生が準備してくれた教材は、自分の考える力を伸ばすのに役立つ	4 3 2 1	
6	板書を見ると授業の内容がわかる	4 3 2 1	
7	教室内や黒板がきれいに整っていて、学習しやすい環境になっている	4 3 2 1	
8	先生は、わかりやすく教えてくれる	4 3 2 1	
9	発言や話し合い活動をする際、どのように話せばいいかわかっている	4 3 2 1	
10	先生は楽しそうに授業をやっている	4 3 2 1	

授業について思っていることや感じていることを自由に書いてください。

楽しい授業にするための授業評価シート(教師用)

実施年月日 年 月 日

氏 名

(4 : そう思う 3 : ややそう思う 2 : あまり思わない 1 : 思わない)

	観 点	評 価	メ モ
1	生徒が理解できるまで教材教具等を工夫し尽くしている	4 3 2 1	
2	何ができるようになるのかを、具体的に生徒に伝えている	4 3 2 1	
3	授業の流れとその時間をどう過ごすのか（説明を聞く時間・課題に取り組む時間など）板書等でわかりやすく伝えている	4 3 2 1	
4	今、何を考える時間なのか、生徒の思考を促すための課題を明確に提示している	4 3 2 1	
5	思考を深めるためのきっかけとなる資料や教材を準備し活用している	4 3 2 1	
6	板書を見ると授業の内容がわかり、生徒の理解や考えるための工夫や配慮をしている	4 3 2 1	
7	教室内や黒板がきれいに整っていて、学習しやすい環境を心がけている	4 3 2 1	
8	生徒や学級集団の状況を把握し、生徒に寄り添ったかかわり方をしている	4 3 2 1	
9	発言や話し合い活動のためのスキルレベルを把握し、必要に応じて『言葉のレシピ』の活用をしている	4 3 2 1	
10	授業者自身が、その単元に魅力（興味・関心）を感じ、生徒が知ること、わかること、できるようになることなどに対し、ワクワクする授業になっている	4 3 2 1	

自由記述

II 方法

1. 研究協力校および研究協力者

高知市内の市立A中学校で授業をおこなっている教員（27名：男性13名、女性14名）

2. 調査方法

(1) 質問紙

- ①『楽しい授業にするための授業評価シート（教師用）』・・・以下Aと記す
教師が自身の授業についてセルフ・モニタリングできるもの
- ②『楽しい授業にするためのアンケート（生徒用）』・・・以下Bと記す
生徒が教師の授業について評価するもの
- ③『ためになる授業にするためのアンケート（生徒用）』・・・以下Cと記す
生徒が自分の授業の受け方について自己評価するもの

(2) 実施期日

- ①第1回 X年5月
A中学校全校生徒・・・B及びC
A中学校教員・・・A

- ②第2回 X年7月
授業に行っているクラスで1クラスを選んで、Bを実施。アンケートを実施するクラスの選び方は、研究推進委員会（校長・教頭・主幹教諭・教務主任・研究主任・生徒指導主事・学年代表）から提案。

- ③第3回 X年11月
A中学校全校生徒・・・B及びC

- ④第4回 X年12月
A中学校教員・・・A
第2回と同じクラスで、Bを実施。

資料3 ためになる授業にするためのアンケート（生徒用）

ためになる授業にするためのアンケート(生徒用)				
実施年月日 年 月 日				
年 組 氏 名				
(4 : そう思う 3 : ややそう思う 2 : あまり思わない 1 : 思わない)				
	観 点	評 価	メ モ	
1	私は理解できるまで先生に聞いたり、友だちに聞いたりしている	4 3 2 1		
2	私は、授業の前夜で、今まで知らなかったことやできるようになったことが増えている	4 3 2 1		
3	授業中、今、何をやればいいのかわかった上で、取り組んでいる	4 3 2 1		
4	先生から質問されると、答えがわかるかわからないかかわらず、そのことについて考える	4 3 2 1		
5	資料や先生が準備してくれた教材があると、学習しやすい	4 3 2 1		
6	板書された中からポイントを見つけ、ノートにマーカーや色ペンなどでわかりやすく書いていく	4 3 2 1		
7	いつも教室や黒板をきれいに保とうとしている	4 3 2 1		
8	授業中、先生の話を聞いたり教科書や資料を見たりしながら、わらうと努力している	4 3 2 1		
9	話し合い活動では、相手の話を聞きながら自分の考えも述べるようにしている	4 3 2 1		
10	授業で自分の知らなかったことを知ることや、できなかったことができるようになることは嬉しい	4 3 2 1		

Ⅲ 結果と考察

1. アンケートへの記入がメタ認知につながる

第1回の「楽しい授業にするためのアンケート（生徒用）」では、生徒から見た教師の授業に対する評価は、全ての項目で3.0以上と高い評価で（Table 1）、逆に教師の自己評価は総じて低いという結果であった（Table 2）。教師はアンケートにチェックする際に、一つひとつの項目を読みながら自分の授業をふり返り、厳しい評価をしているということが伺える。このことから、授業アンケートでは、アンケート項目にチェックすること自体が、そのままセルフ・モニタリングになり、セルフ・コントロールする上でのゴールイメージとなって、具体的行動レベルでの修正へとつながりやすくなったことがわかった。例えば、非常に低い結果（2.0）であったNo.9の「言葉のレシピ」の活用に関する項目においては、急に意識が高まり、黒板にレシピを掲示して授業を行う場面が多く見られるようになった。この変容から授業アンケートを行うことは、自身の授業についてメタ認知しやすくなると考えられる。次に、教師の自己評価は高いのに、生徒からの評価が低かったのは、No.7の教室環境であった。このことについては、教室の棚の中に個人用の段ボール箱を用意し、その中にファイルを整理することを試みている。今後の課題としては、教師だけではなく、生徒自身が学習環境を整えることについての意識が高くなるように、専門委員会（美化委員会や学習文化委員会）の活動も行っていく必要があると考える。

Table 1 楽しい授業にするためのアンケート集計（生徒） n =487

No.	質問	4	3	2	1	平均				
		そう思う	やや そう思う	あまり 思わない	思わない		評価4	評価3	評価2	評価1
1	先生は、私が理解できるまでいろいろな方法で教えてくれる	170	244	64	9	3.2	35%	50%	13%	2%
2	私は、1時間1時間の授業で、何がどこまでできるようになればいいか知っている	125	231	116	15	3.0	26%	47%	24%	3%
3	先生が、授業の流れとその時間何をすればいいか話してくれるので取組みやすい	232	212	42	1	3.4	48%	44%	9%	0%
4	先生の質問は、今、何について考えればいい時間なのかわかりやすい	163	257	65	2	3.2	33%	53%	13%	0%
5	資料や先生が準備してくれた教材は、自分の考える力を伸ばすのに役立っている	220	224	39	4	3.4	45%	46%	8%	1%
6	板書を見ると授業の内容がわかる	222	199	57	9	3.3	46%	41%	12%	2%
7	教室内や黒板がきれいに整っていて、学習しやすい環境になっている	134	254	85	14	3.0	28%	52%	17%	3%
8	先生は、わかりやすく教えてくれる	221	219	40	7	3.3	45%	45%	8%	1%
9	発言や話し合い活動をする際、どのように話せばいいかわかっている	135	243	98	11	3.0	28%	50%	20%	2%
10	先生は楽しそうに授業をやっている	207	209	59	12	3.3	43%	43%	12%	2%

Table 2 楽しい授業にするためのアンケート集計（教師） n =27

No.	質問	4	3	2	1	平均				
		そう思う	やや そう思う	あまり 思わない	思わない		評価4	評価3	評価2	評価1
1	生徒が理解できるまで教材教具等を工夫し粘り強くかかわっている	2	17	7	1	2.7	7%	63%	26%	4%
2	何がどこまでできるようになればいいか、具体的に生徒に伝えている	10	14	3	0	3.3	37%	52%	11%	0%
3	授業の流れとその時間をどうさせばいいのか（説明を聞く時間・課題に取り組み時間など）板書等でわかりやすく伝えている	8	16	3	0	3.2	30%	59%	11%	0%
4	今、何を考える時間なのか、生徒の思考を促すための課題を明確に提示している	6	15	5	1	3.0	22%	56%	19%	4%
5	思考を深めるためのきっかけとなる資料や教材を準備し活用している	1	15	11	0	2.6	4%	56%	41%	0%
6	板書を見ると授業の内容がわかり、生徒の理解や考えるための工夫や配慮をしている	5	13	7	2	2.8	19%	48%	26%	7%
7	教室内や黒板がきれいに整っていて、学習しやすい環境を心がけている	12	13	2	0	3.4	44%	48%	7%	1%
8	生徒や学級集団の状態を把握し、生徒に寄り添ったかかわりをしている	7	15	5	0	3.1	26%	56%	19%	0%
9	発言や話し合い活動のためのスキルレベルを把握し、必要に応じて『言葉のレシピ』を活用している	0	4	18	5	2.0	15%	67%	19%	0%
10	授業者自身が、その単元に魅力（興味・関心）を感じ、生徒が知ること、わかること、できるようになることなどに対し、ワクワクする授業になっている	3	13	11	0	2.7	11%	48%	41%	0%

2. 自由記述を活用した組織的な授業改善

生徒用アンケートの自由記述（一部抜粋）からは次のような結果が得られた。以下に示す、○は、子どもたちがわかりやすい、楽しいと感じていることなので、今後も続けていき、●は、子どもたちがやりにくさを感じていることなので、このままの状態では授業を続けるのではなく、他の方法を

考えながら授業等の改善が必要と考えられる。

【班活動・かかわり合いのある授業】

- 班活動で班の人と一緒に考えて班活動があれば班の人に聞いたりできる。
- 授業で班ごとに考え、発表していったらみんなの考えがわかるのでいいと思う。
- 学活・道徳の時間は先生とみんなが楽しく関わっているから好き。
- 班活動で班の人と一緒に考えていくことで、分からないことがよく分かったり、友だちの意見なども聞けるから、班活動の授業は楽しいと思う。
- 話し合いになった時、話し合いをしていないところが多い。
- 話し合いができない。
- 練習問題を班ではなくて、一人ひとりでやりたいです。

【課題設定】

- 「～について話し合ってください」の時の「～何々」のところが難しくて話し合えない時があるので、例えとかもっとわかりやすい言葉で教えてほしい。

【教材】

- プリントなどがあるとわかりやすい。
- 先生が準備する教材は勉強になる。
- 先生が準備してくれた教材は、授業のまとめなどを書いてくれているのでわかりやすい。

【ゴールと流れ】

- 「ゴール」と「流れ」を最初を書いて勉強するので勉強しやすい。

【発表のタイミング】

- 挙手で発表する時に、もっと手を挙げやすい環境にしてほしい。
- 発表する時に、手を挙げて言うかそうじゃないかがわからずに、結局発表出来ない時がある。
- 時々、頭が良い人が答えてどんどん進めていく先生がいるので、それはやめて欲しいです。

【机間指導】

- 先生が教室を回ったりして教えてくれるので先生に聞きやすい。
- 班机になった時に、先生が机の周りをまわって分からない人を優しく教えていると思う。

【環境】

- たまに前の時間にやったことを書いてある黒板を消していないことがある。
- 授業をするときに黒板が消えていないことがある。
- 係りの人が黒板を消さない。消しても雑だからきたない。

生徒の自由記述の中には、教師にとっては厳しい内容のものも含まれている。しかし、これを批判と受け止めるのではなく、授業改善を行うためのヒントと考えれば、まさに「子どもの声は宝の山」である。A校では、生徒の自由記述の内容を全て記載した冊子を作成して教員に配付したところ、教員はそれを読むことで、セルフ・モニタリングが促進され、うまくいっている教員をモデルとして、自身の授業方法を見直すようになった。例えば、授業の空き時間に他の教員の授業を参観に行き、『ゴール』と『流れ』をどのように示しているかを実際に見て、自分の授業でもそれを真似して、思考する場面や班での活動などを具体的に示し、生徒がこの1時間をどのように過ごせばいいかがわかるように工夫するようになった教員が増えている。このように、学校全体で取り組むことで、教師集団の自己教育力も育成できることが示唆された。

3. アンケート結果のズレを活用した教師のセルフ・モニタリング

授業に行っているクラスの生徒からの直接の授業評価と教師自身の授業評価を比較して、「1学期 授業評価振り返りシート」（資料4）に、気づいたことや授業改善のポイントを記入してもらった。このシートを記入することで、自然に①セルフ・モニタリング（自分の授業を子どもたちはどう受けとめているのかを知る）と②セルフ・コントロール（どこをどう修正すればいいかを考え、指導方法の修正をはかる）ができる流れができた。自由記述の中には、「自分の授業への取り組みの手応えと生徒の感じ方に想像していたより差があった。授業づくりにおいて、どこを努力していけばいいかが具体的にわかった」「自身の評価に比べると生徒の評価が高かった。しかし定期テストや課題の達成率等は低い。生徒が『学んでいるつもり』で止まっているのは私自身の課題であると思った」など授業に対しての当事者意識が高まり、授業改善に対して能動的な態度が見られた。

また、授業改善のポイントについては、「プリント類、図、絵等を取り込んで視覚的にわかるものを取り入れたい（理科学んでいるつもり）」「具体物を提示するようにする（数学）」「見本の提示をしていく（体育）」「考えなくなる課題・答えやすい課題を設定するようにする（社会）」「時間ごとに板書計画を立てる（社会）」「発問の工夫や答え方の指導を丁寧に行い、何を考えるのか、何を話し合えばいいのかを明確にする（社会）」「読むことをもっと授業に取り入れる（国語）」などの具体的な記述が多く見られた。自由記述の内容を冊子にして全員に配付し、お互いの授業改善への取り組みを読むことで、指導行動のモデルをみつけることができ、自身の授業の変化へとつながっている。特に同じ教科の教員の書いたものについての関心が高く、教科会などでこのシートをもとに授業改善について話し合う場面が増えている。

資料4 授業振り返りシート

1学期 授業評価振り返りシート				
氏 名				
※生徒の授業評価と比較して、気づいたことや授業改善のポイントをメモ欄に記入する				
順 号	自 分	生 徒	メ	モ
1	生徒が理解できるまで教材教具等を工夫し粘り強くかわっている	2	3.4	内容の精選はしているが、課題等は「きいてない」
2	何がどこまでできるようになればいいか、具体的に生徒に伝えている	3	2.8	伝えてはいるが、それができない生徒は、理解が浅い。
3	授業の流れとその時間をどう過ごせばいいのか（説明を聞く時間・課題に取り組む時間など）板書等でわかりやすく伝えている	3	3.3	なぜやる必要があるのか、常に伝えているが、伝えない生徒は多い。
4	今、何を考える時間なのか、生徒の思考を促すための課題を明確に提示している	4	3.1	図や表、図解をして、やらせてみるも、生徒が思い通りにできない。
5	思考を深めるためのきっかけとなる資料や教材を準備し活用している	2	3.0	もっと深めたいが、時間的に難しい。
6	板書を見ると授業の内容がわかり、生徒の理解や考えるための工夫や配慮をしている	4	3.1	かなり良いと思うが、授業の進め方によっては、生徒が理解できない。
7	教室内や黒板がきれいに整っていて、学習しやすい環境を心がけている	4	2.9	図や表、図解をして、やらせてみるも、生徒が思い通りにできない。
8	生徒や学習集団の状況を把握し、生徒に寄り添ったかわり方をしている	4	3.5	生徒の学習状況を把握しているが、授業の進め方によっては、生徒が理解できない。
9	発言や話し合い活動のためのスキルレベルを把握し、必要に応じて『言葉のレシピ』の活用をしている	1	2.8	みんなに理解しないが、説明の順序や、質問の仕方など、工夫を凝らしている。
10	授業者自身が、その単元に魅力（興味・関心）を感じ、生徒が知ること、わかること、できるようになることなどに對し、ワクワクする授業になっている	4	3.2	みんなに理解しないが、説明の順序や、質問の仕方など、工夫を凝らしている。
自由記述				
授業の最後に、1学期の感想をノートに書いてもらい、全員のコメントを頂きました。2学期の始めに、その感想をもとに、授業改善のポイントを、自分自身で考えてみます。				

1学期 授業評価振り返りシート				
氏 名				
※生徒の授業評価と比較して、気づいたことや授業改善のポイントをメモ欄に記入する				
順 号	自 分	生 徒	メ	モ
1	生徒が理解できるまで教材教具等を工夫し粘り強くかわっている	4	3.1	課題の説明は、図や表、図解をして、やらせてみるも、生徒が思い通りにできない。
2	何がどこまでできるようになればいいか、具体的に生徒に伝えている	3	2.9	伝えてはいるが、それができない生徒は、理解が浅い。
3	授業の流れとその時間をどう過ごせばいいのか（説明を聞く時間・課題に取り組む時間など）板書等でわかりやすく伝えている	4	3.3	なぜやる必要があるのか、常に伝えているが、伝えない生徒は多い。
4	今、何を考える時間なのか、生徒の思考を促すための課題を明確に提示している	4	3.2	図や表、図解をして、やらせてみるも、生徒が思い通りにできない。
5	思考を深めるためのきっかけとなる資料や教材を準備し活用している	3	3.3	もっと深めたいが、時間的に難しい。
6	板書を見ると授業の内容がわかり、生徒の理解や考えるための工夫や配慮をしている	3	3.3	かなり良いと思うが、授業の進め方によっては、生徒が理解できない。
7	教室内や黒板がきれいに整っていて、学習しやすい環境を心がけている	3	2.8	図や表、図解をして、やらせてみるも、生徒が思い通りにできない。
8	生徒や学習集団の状況を把握し、生徒に寄り添ったかわり方をしている	4	3.3	生徒の学習状況を把握しているが、授業の進め方によっては、生徒が理解できない。
9	発言や話し合い活動のためのスキルレベルを把握し、必要に応じて『言葉のレシピ』の活用をしている	2	3.0	みんなに理解しないが、説明の順序や、質問の仕方など、工夫を凝らしている。
10	授業者自身が、その単元に魅力（興味・関心）を感じ、生徒が知ること、わかること、できるようになることなどに對し、ワクワクする授業になっている	4	3.4	みんなに理解しないが、説明の順序や、質問の仕方など、工夫を凝らしている。
自由記述				
自分自身で気づいたこと、気づいたこと、生徒の目から見て、できていないこと。				

4. 生徒の授業への自我関与

授業改善を行うためには、生徒自身も教師への授業評価をするだけでなく、自らの授業への取り組みについて、責任をもつことが大切である。A校では、生徒自身も自らの授業での学びについて振り返る『ためになる授業にするためのアンケート（生徒用）』（資料3）を実施し、以下のような結果が得られた（Table 3）。結果が低かったNo.9については、教師が「聴き方のルール」（写真1・2）を作成してモデルを示したところ、話の聴き方が意識できるようになっている。

Table 3 ためになる授業にするためのアンケート集計（生徒）n=487

No.	質問	4	3	2	1	平均				
		そう思う	やや そう思う	あまり 思わない	思わない		評価4	評価3	評価2	評価1
1	私は理解できるまで先生に聞いたり、友だちに聞いたりしている	138	220	108	21	3.0	28%	45%	22%	4%
2	私は、授業の前後で、今まで知らなかったことやできるようになったことが増えている	213	216	50	8	3.3	44%	44%	10%	2%
3	授業中、今、何をやればいいかわかった上で、取り組んでいる	189	247	48	3	3.3	39%	51%	10%	0%
4	先生から質問されると、答えがわかるかわからないかにかかわらず、そのことについて考える	169	225	83	10	3.1	35%	46%	17%	2%
5	資料や先生が準備してくれた教材があると、学習しやすい	274	182	29	2	3.5	56%	37%	6%	0%
6	板書された中からポイントを見つけ、ノートにマーカーや色ペンなどでわかりやすく書いている	213	166	81	27	3.2	44%	34%	17%	6%
7	いつも教室や黒板をきれいに保とうとしている	110	249	112	16	2.9	23%	51%	23%	3%
8	授業中、先生の話を聴いたり教科書や資料を見たりしながら、わくわくとうつろいながら聞いている	224	226	33	4	3.4	46%	46%	7%	0%
9	話し合い活動では、相手の話を聞きながら自分の考えも述べるようにしている	126	216	123	22	2.9	26%	44%	25%	5%
10	授業で自分の知らなかったことを知ることや、できなかったことができるようになることは嬉しい	291	152	34	10	3.5	60%	31%	7%	2%

0% 20% 40% 60% 80% 100%

写真1

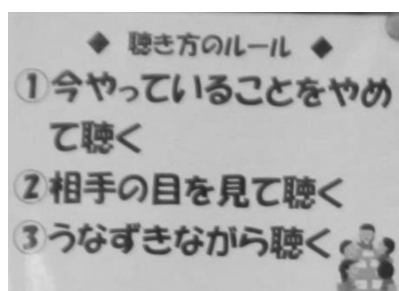


写真2



自由記述の欄には、「もっと教室の環境を整えて、気持ち良く授業に取り組めます」「板書された中からポイントを見つけ、ノートにマーカーや色ペンなどでわかりやすく書こうと思う」「自分の事だけど、うるさくじゃまをしてしまうので直したいです」「先生や友だちに聞かずに自分だけで考えてしまうので、これからはしっかりいろんな人に聞いて理解していこうと思いました」などの記載があった。生徒も教師と同様に、アンケート項目にチェックすること自体が、そのままセルフ・コントロールする上でのゴールイメージとなり、「自分自身はどのように授業に臨めばいいのか」とい

う修正へとつながり、能動的に自分の授業への取り組み方を変えていこうとすることが示唆された。アンケート実施後の授業では、ノートの使い方を工夫している様子や、班での活動の中で積極的に自分から話しかける姿を目にすることが多くなっている。

このことから『楽しい授業にするための授業評価シート（教師用）』『楽しい授業にするためのアンケート（生徒用）』『ためになる授業にするためのアンケート（生徒用）』の3種類の授業アンケートを実施することで、教師のみで授業改善するだけではなく、生徒の自我関与による効果も期待できると考えられる。

【引用文献】

- 天根哲治・川原弘明(1986). 教師のセルフ・モニタリングに関する研究 兵庫教育大学研究紀要. 第1分冊、学校教育・幼児教育・障害児教育 7, 87-99.
- 第2期高知県教育振興基本計画 平成28年3月 高知県教育委員会
- 岩淵千明・田中国夫・中里浩明(1982). セルフ・モニタリング尺度に関する研究 心理学研究, 53, 54-57.
- Snyder, M. (1974). Self-monitoring of expressive behavior. *Journal of Personality and Social Psychology*, 30, 526-537.
- 多鹿秀継・森岡正芳・三宮真知子（他） 2010 メタ認知を育む学習指導 教育心理学年報, 49(0), 33-36.
- Tangney, J. P., Baumeister, R. F., & Boone, A. L. (2004). High self-control predicts good adjustment, less pathology, better grades, and interpersonal success. *Journal of personality*, 72, 271-324.
- Thoresen, Carl E., and Michael J. Mahoney. Behavioral self-control. Holt McDougal, 1974.